

松本市市民活動

サポートセンター通信

NO.14

発行：松本市市民活動サポートセンター

〒390-0874 松本市大手3-8-13

松本市役所大手事務所2階

TEL/FAX：0263-88-2988

E-mail：support-center@support-center.jp

URL：http://www.support-center.jp



しみんサロン

「子どもとケータイ」

@信濃むつみ高校

子ども編
vol.3

しみんサロンは、今回初めてサポートセンターを飛び出し、信濃むつみ高校で開催されました。教室での授業よりもインターネットを利用した講義やメールでの連絡が中心になる通信制高校の生徒さんたちに、ネットや携帯電話を使いこなす若者の代表としての意見を聴くのが、企画のねらいです。

高校生の参加は今までにない新鮮で、円形劇場のようなオープンなラウンジでの討論会に「松本版しゃべり場のようで楽しかった」との感想もありました。大人26人に対して5人の高校生がめげずに、携帯電話で享受する暮らしぶりを率直に語ってくれました。「ケータイは生活の必需品」、「同調する人が集まれる」、「危険性は認識している」、「対面する会話と同様、ネット上での発言には責任をもっている」などの意見に、大人たちは「子どもが自分を表現するチャンネルは多い方が良い」「子どもたちの意見に強さ、未来の可能性を感じた」と好意的に受け止めていました。一方で、その危険性、マイナス面を指摘する声、メディア・リテラシーの必要性、さらには「使う側の責任」だけでなく「提供者の責任」も挙げられており、次回につなげていきたいテーマです。



☆協働事業の提案を募集しています☆

～市民協働事業提案制度～

市民協働事業提案制度は、多様な住民ニーズに
応え社会的課題や地域課題を、市民と行政との協働
によって解決するために、より多くの様々な提案
を受け入れる仕組みとして、平成18年11月にスタート
しました。

この制度は、行政が選定したみなさんの活動に
対し一定の補助金等を支出するという補助・助成
制度ではありませんが、経費のあり方も含め、
みなさんからの提案をいっしょに練り上げていく
という過程を大切にしながら、みなさんのアイ
ディアと行政の情報を練り合わせて、双方の知恵
を出し合い課題の解決を図っていこうとするもの
です。

市民のみなさんと松本市が協働すれば、「こんな
事業も、もっと効果が期待できる」、「あんな
課題も解決できるかも」というような新たな事業
の提案をいつでも募集しています。

この制度に限らず、協働に関する相談などありまし
たら、ご遠慮なく市民生活課協働推進係（市役所大手
事務所2階）へお問い合わせください。

〈説明会 開催します！〉

日時：3月18日（火）

①午後2時～午後3時

②午後7時～午後8時

※ 各回とも同内容です。どちらかご都合の
良い回へご参加ください。

内容：制度の趣旨や提案方法等

場所：市民活動サポートセンター

申込：事前申込は必要ありませんので、直接会場へ
お越しください。

問合せ：市民生活課協働推進係（Tel.34-3264）

※既に、広報まつもと3月1日号（P6）でもお知らせしてありま
すが、より多くの方にご参加いただきたく再度ご案内いたします。

このコーナーでは当センターに団体登録のある、様々な活動団体をご紹介します！！
今回、お話をうかがったのは、「長野サマライズセンター」と、「女鳥羽川の自然を考える会」の両団体です。

長野サマライズセンター

◇連絡先 TEL/FAX : 86-1619
E-mail : sama4089@yahoo.co.jp

ボランティアグループとして要約筆記の活動を続ける中で、「専門職として担う人材を育てていきたい」との思いから 2003年にNPO法人化。聴覚障がいを持つ方々に向けて、パソコン要約筆記通訳(※)活動を中心に、大学での授業サポート通訳等、ITを駆使した文字情報の提供を行っている。副理事長の小笠原恵美子さん、スタッフの藤村美枝子さん、幸西美雪さんにお話を伺った。

やりがいとは利用者の方からの感謝の声や、支援を通じた成長を感じられること。幸西さんは「要約筆記との出会いを通じて、消極的だったお子さんが積極的に変わっていく姿を見るのがなにより嬉しい」と微笑む。

現在は、全県からの依頼があり多忙な日々だが「大変な時もあるけれど、続けて欲しいという声に後押しされている」との藤村さんの言葉にある様に、“活動を必要とする声の存在”が会の原動力になっている。

今年2月、会は名古屋市で開かれた「企業&NPO協働アイデアコンテスト」で最優秀賞を受賞した。企業のコールセンターを利用し聴覚障がい者への情報提供を図ったもので、小笠原さんは「企業とNPO、それぞれのメリットがある提案が出来たのが良かったのでは」と今回の受賞を振り返った。

今後はこの提案の実現と、まだ浸透が進んでいない義務教育の現場への要約筆記の普及を目指していく。また、新たな取り組みとして携帯電話

を使った情報提供システムへの取り組みも動き出した。

「いつ、どこへ、何を」しに行っても、文字情報があるのが当たり前の社会を目指して。受賞を通過点に、今後の更なるステップアップを目指していく。



(※) パソコン要約筆記…話している内容を要約して、パソコンにテキスト入力し、スクリーンに映し出して文字情報として提供するもの。

女鳥羽川の自然を考える会

◇連絡先 TEL : 62-5470

「11年前、女鳥羽川の河川改修への問題意識から勉強会を始めたことが発足のきっかけでした」と事務局の安藤真后さんは当時を振り返った。「身近な自然である女鳥羽川を守っていきたい」との思いから、代表の伊藤敏郎さんと安藤さんは当初から共に活動を続けてきた。女鳥羽川は「短い川ではあるが、上流から下流までの各区間によって様々な表情を見せる河川」だという。会の活動が水温の調査から、ホタルの保護、湧水(ゆうすい)の調査、特定外来種のアレチウリの駆除など、多岐に渡っているのもそのためだ。

そのうち、アレチウリの駆除活動は、今年で10年目。暑い中、体力を要する大変な作業だが、なかなか効果が現れず「中止すべきでは？」との声も上がった。しかし、対象区間を1キロメートルの長さ限定し、方法を改めながら駆除を続けた結果、「去年は散見する程度に減少した」とのこと。活動の成果は確実に現れ始めた。

しかし、先月中旬伊藤さんの突然の訃報が会を襲った。人望も厚く、率先して活動に取り組んできたリーダーは、子どもやお年寄りに親しまれてきた木に伐採の話が持ち上がると、自ら交渉に出向いていった。「一本の木を守るために走る、そんな人だった」と伊藤さんの人柄を振り返り、安藤さんは声を詰まらせた。

「川は、面積は小さいが果たしている役割は大きい。しかし小さいから簡単に“壊れて”しまう。でも、少し手をかけてあげれば自ら蘇ってくるんです。だからほんの少しでも川のことを気にかけて欲しい」と安藤さんは語る。

伊藤さんが大切に育ててきた会、そして伊藤さんの愛した“ホタルの住む女鳥羽川”を受け継いでいくためにも、会は今後も活動を継続していく。



平成20年度
分受付中!

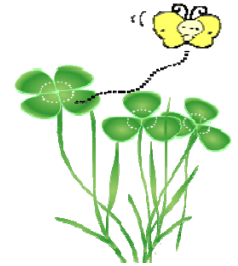
松本市ボランティアセンターから 一 ご 案 内 一

～ボランティアをする時は 保険に加入しましょう～

ボランティア活動保険

- ◇保険内容 ボランティア活動中、または活動の行き帰りの途中に起きた事故によるご自身のケガや賠償責任（他者にケガをさせてしまったり、物を壊してしまったりなど）を補償します。ただし自動車による事故はボランティア自身のケガのみが補償の対象となります。
- ◇保険料 **A：260円、B：420円、C：590円**（年間）
（地震等の天災に対応したプランもあります）
- ◇補償期間 平成**20年4月1日**～平成**21年3月31日**
- ◇補償内容 <死亡>**1,418万円**、<後遺障害>**1,418万円**(限度額)、
(例A) <入院>**7,000円**/日、<通院>**4,500円**/日、<賠償責任>**5億円**（限度額）

保険料が下がりました!



—その他の取扱保険—

ボランティア行事用保険

福祉活動などさまざまな行事における事故を補償します。

送迎サービス補償

自動車での送迎サービス中の事故による利用者のケガを補償します。

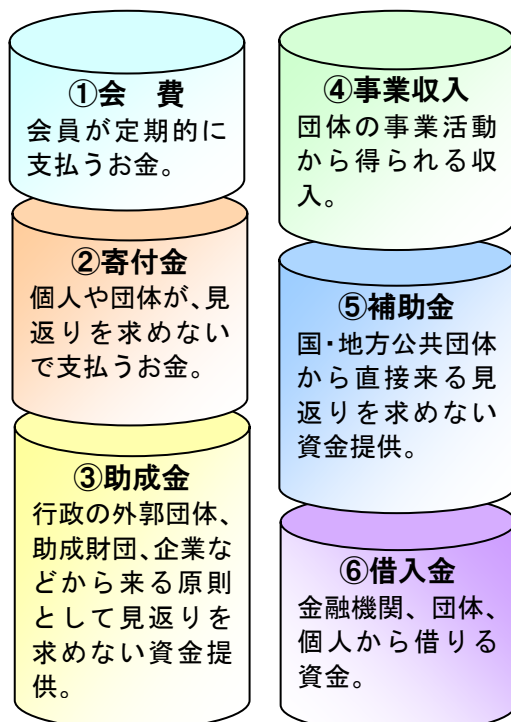
お申込は、松本市ボランティアセンターへ!

〒390-0833 松本市双葉4-16 松本市総合社会福祉センター5F TEL: 25-7311

まとめ知識⑫ ～基礎から学んで賢く活用～



Q. ファンドレイジング って何のことか教えて!



A. ファンドレイジングとは、「資金調達、資金開拓」の意味で、団体活動のために必要となる基金集めや資金を調達するための活動のことを言います。

資金調達の方法として、企業や個人からの寄付、民間の助成金等の活用などのほか、最近では夢バンクのような“NPOバンク”から融資をうけることも手段のひとつとして考えられます。

団体の資金源は、事業活動による収入も含め、大きく分けて左のように分類できますが、**継続性のある活動を行っていくためには、資金源をどれかひとつに絞るのではなく、バランスよく確保していくことが大切です。**

またファンドレイジングを単なる資金調達的手段として捉えるのではなく、**寄付者や支援者とのコミュニケーションや信頼関係を構築する手段だと考えることも大切**ではないでしょうか。

豆知識の豆知識

米国などでは、職業として専門的に資金調達を行なう“ファンドレイザー”と呼ばれる人たちが多くのNPOなどで活躍しているそうです。





NPO 法人ライフデザインセンター なんでもありの講演会

ライフデザインセンターでは、“あなたのライフデザインに選択肢を提供する勉強会”を毎月開催しています。

老い支度：賢く老いて家で死ぬためには？ なぜ医療と介護は一体化できないのか？ 地域医療にかける“往診の名医”の処方箋

- ◇日時：3月26日（水）10時～12時
- ◇講師：矢島嶺医師

事務局として、この頃特に思うこと、感じること 安心して、老い支度をするために、実験から

- ◇日時：4月17日（木）10時～12時
- ◇講師：ライフデザインセンター理事 久島和子

老い支度：年金生活をタイで安価で楽しく暮らす方策 タイ滞在者との交流で学んだこと、感じたこと

- ◇日時：5月15日（木）10時～12時
- ◇講師：ライフデザインセンター理事 吉田由美子

老い支度：高齢期の住まい 安心して老いを迎える

住まいの種類を選択する時の注意

- ◇日時：6月19日（木）10時～12時
- ◇講師：ライフデザインセンター理事 久島和子

- ◇会場：各回とも 松本市市民活動サポートセンター
- ◇資料代：各回とも 会員 700円 一般 1,000円
- ◇申込：ライフデザインセンター 松本相談室
TEL/FAX: 46-2020

サポセン写真館

～サポートセンター、ある日のヒトコマ～



毎月第1、第2金曜日は、ボランティアセンター主催の「園芸療法講座」がフリースペースで行われています。人気の講座で、毎回多くの受講生の方で賑わいを見せる一コマです。

第八回溪流保護シンポジウム 上高地の自然と利用を考える

日本が世界に誇る「上高地」の保全と利用を今後どのようにしていったら良いのか、旅館関係者、行政、研究者、環境保護団体、市民等とともに自然と人との共生の道を探りましょう。

- ◇日時：3月22日（土）13時～17時（受付12時半～）
- ◇場所：長野県松本勤労者福祉センター3階第5会議室
- ◇内容：報告
田中昌之 林野庁中信森林管理署署長
鈴木啓助 信州大学山岳科学総合研究所所長
パネルディスカッション（報告者を含む）
鳥居総一郎 上高地旅館組合組合長
青柳薫 上高地町会長
赤廣三郎 松本市安曇支所長
田口康夫 溪流保護ネットワーク・砂防ダムを考える 代表
予定 上高地自然史研究会
コーディネーター
植松晃岳 信州まつもと山岳ガイド協会やまたみ
- ◇参加費：500円（資料代）
- ◇問合せ：水と緑の会
溪流保護ネットワーク・砂防ダムを考える
TEL/FAX：32-1511 田口

サポートセンターからのお知らせ

モニターを活用してみませんか？



今まで、少し目立たない場所にあったモニターですが、団体のDVD・ビデオを自由に再生してご覧いただくことができます。団体の活動の様子などを記録されたDVDなどがございましたら、イベント等の際の活動PRの一手段としても、ぜひご活用ください。

編集後記

松本市市制施行100周年の年も、いよいよフィナーレを迎えます。100周年記念事業では、センター登録団体による、市民提案イベントも多く開催されました。これからの新たな100年は、市民の皆様との更なる協働によるまちづくりを進める、新たな一世紀を目指していきたくと思います。